

IMAGENICS

NEX-SMART CONTROLLER

NEX-CTR11

取扱説明書

お買い上げありがとうございます。

NEX-CTR11 は弊社 NEX-SMART 製品を制御するコントローラーユニットです。
Web ブラウザから NEX-SMART 機器全体の設定や操作を行うことが可能です。
また、LAN 通信または RS-232C 通信による外部制御が可能です。
この取扱説明書には安全にお使いいただくための重要な注意事項と、製品の取り扱い方法を記しています。
よくお読みのうえ、製品を安全にご使用ください。
別添の保証書とともにいつでも見られるところに必ず保管してください。

安全にお使いいただくために



本機は、安全に十分配慮して設計されています。しかし、誤った使い方をするとう火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

この取扱説明書では、製品を安全にお使いいただくための表示を無視して誤った使い方をした時に生じる内容を、以下のような表示で区分し、説明しています。	製品を安全にお使いいただくためにお守りいただく内容の種類を、下記のような絵表示で区分し、説明しています（絵表示は一例です）。
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>警告</p> <p>この表示は、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容である事を示します。</p> </div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>注意（警告を含む）を促すものです。例えば は「感電注意」を示しています。</p> </div> </div>
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>注意</p> <p>この表示は、人が怪我をしたり物的な損害を負う可能性が想定される内容である事を示します。</p> </div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>禁止行為を示すものです。例えば は「分解禁止」を示しています。</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div> <p>行為を強制したり指示したりするものです。例えば は「プラグを抜くこと」を示しています。</p> </div> </div>










警告

<p>■本機は日本国内専用です。交流 100 Vでご使用ください。</p> <p>交流 100 V、50 Hz・60 Hzの電源でご使用ください。指定以外の電源を使用すると、火災や感電の原因になることがあります。交流200 V系の電源でご使用になられる場合は、必ず弊社サポートダイヤルまでご相談ください。</p>	 指示
<p>■電源コード・電源プラグを傷つけないでください。</p> <p>電源コードを加工したり、傷つけたり、重いものを乗せたり、引っ張ったり、熱器具に近づけたり、加熱したりしないでください。火災や感電の原因となることがあります。</p>	 禁止
<p>■内部に水や異物を入れないでください。</p> <p>火災や感電の原因となることがあります。万が一、水や異物が入ったときはすぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて弊社サポートダイヤルにご相談ください。</p>	 プラグを抜く
<p>■故障や異常が発生した時は使用しないでください。</p> <p>本機から煙や異音がでる、異臭がするなど、異常な状態での使用を続けると火災や感電の原因になることがあります。故障や異常が発生したら直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて弊社サポートダイヤルに修理をご依頼ください。</p>	 プラグを抜く
<p>■雷がなりだしたら、本機や電源プラグ、接続ケーブル類には触れないでください。</p> <p>感電の原因となることがあります。</p>	 接触禁止
<p>■電源コードが傷んだら使用しないでください。</p> <p>火災や感電の原因となりますので、電源コードが傷んだり電源プラグが発熱したらすぐに電源を切り、プラグが冷えたことを確認してコンセントから抜いてください。電源コードの修理は弊社サポートダイヤルにご相談ください。</p>	 プラグを抜く
<p>■コンセントや配線器具の定格を超える使い方はおやめください。</p> <p>タコ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。</p>	 禁止
<p>■濡れた手で電源プラグにさわらないでください。</p> <p>感電の原因となることがあります。</p>	 水ぬれ手禁止
<p>■改造しないでください。</p> <p>故障の原因となることがあります。調整は弊社サポートダイヤルにご相談ください。</p>	 改造禁止

 **警告**

<p>■水のかかるおそれのある場所では使用しないでください。 風呂場、シャワー室などの水のかかる恐れのある場所には設置しないでください。本機の上に水などの液体が入った容器を置かないでください。水にぬれると感電したり火災の原因になります。</p>	 水ぬれ手禁止
<p>■定期的に電源プラグのチェックをしてください。 電源コンセントにプラグを長期間差し込んだままにしておくと、その間にほこりやゴミが溜まってきます。さらに空気中の水分などを吸湿すると、電機が流れやすくなるため(トラッキング現象)プラグやコンセントが炭化し、ときには発火の原因になることがあります。事故を防ぐため定期的に電源プラグがしっかりささっているか、ほこりが付いていないかなどを点検してください。</p>	 指示

 **注意**

<p>■安定した場所に設置してください。 ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、落下によりけがの原因になることがあります。</p>	 指示
<p>■熱源・ノイズ源の近くに設置しないでください。 本機の近くに熱源・ノイズ源となるものを設置しないでください。故障や火災の原因となることがあります。</p>	 指示
<p>■コイン型電池の電池残量が無い状態で使用し続けしないでください 過放電のまま使用を続けると液漏れや液漏れによる腐食を誘発する原因となる場合があります。 そのまま放置すると、火災や故障の原因となる場合があります。</p>	 指示
<p>■電源プラグの抜き差しは、プラグの部分を持って行ってください。 電源プラグを抜くときはコードを引っ張らずに、プラグの部分を持って抜き差ししてください。コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。</p>	 指示
<p>■移動させる時や、長時間つかわない時は電源プラグを抜いてください。 電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります。 長期間使用しないときは安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。差し込んだままにしていると火災の原因となる場合があります。</p>	 プラグを抜く
<p>■お手入れの時は、電源プラグを抜いてください。 電源プラグを差し込んだままお手入れすると、感電の原因になることがあります。</p>	 プラグを抜く
<p>■接続ケーブル類を引っ張ったり、引っ掛けたりしないでください。 接続された機器が倒れたり落ちたりして、けがの原因になる事があります。</p>	 禁止
<p>■直射日光のあたる場所、湿度や湿気のたかい場所、ほこりや油煙の多い所では使用しないでください。 直射日光の当たる場所、熱器具の近く、加湿器の近く、ほこりや油煙の多い場所などには設定しないでください。 火災や感電、故障の原因になることがあります。本機をご使用の際は使用湿度範囲をお守りください。 保存される場合は保存温湿度範囲を守って保存してください。</p>	 禁止
<p>■ケーブルの接続時は機器の電源を切ってください。 故障や感電の原因となる場合がありますので、各種ケーブルを本機に接続する時は、各機器の電源を切った状態で行ってください。</p>	 指示

目次

安全にお使いいただくために	1
1. 同梱物の確認	5
2. 本機の概要と特徴	6
3. ご使用いただく際の注意点	6
4. 工場出荷状態に戻す	7
5. 各部名称と働き	7
6. LAN ケーブルについて	9
7. NEX-SMART 機器との接続方法	9
<推奨接続例>	10
<単純な延長器として利用する場合>	10
8. 外部制御機器との接続例	11
<外部制御機器との LAN 通信>	11
<外部制御機器との RS-232C 通信>	11
9. Web ブラウザからの接続	12
<推奨環境>	12
<Web ブラウザでのアクセス方法>	13
<ログイン画面とアカウント>	13
<画面の構成>	14
<用語説明>	14
<操作画面 共通項目>	15
<操作画面 共通操作>	16
<クロスポイント画面>	17
[クロスポイント画面の解説]	17
[TX カードの解説]	18
[RX カードの解説]	19
<クロスポイントメモリ画面>	20
<マルチビュー画面>	20
[マルチビュー画面の解説]	20
[マルチビューカードの解説]	20
<ビデオウォール画面>	21
[ビデオウォール画面の解説]	22
[ビデオウォール画面 TX カードの解説]	22
[ビデオウォールカードの解説]	22
<機器設定画面>	23
[TX カード オペレーション]	24
[RX カード オペレーション]	24
[TX/RX カード デバイス]	25
[TX/RX カード ネットワーク]	26
[機器設定 メニュー]	26
<クロスポイントメモリ設定画面>	26
<マルチビュー設定画面>	26
<ビデオウォール設定画面>	26
<RS-232C 接続設定画面>	27
<システム設定画面>	27
<アカウント設定画面>	28
10. 設定ファイル(バックアップ)について	29
11. シリアル通信による外部制御	29
<RS-232C 通信>	29

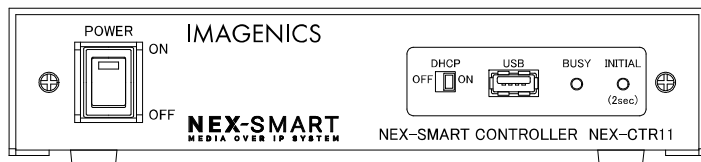
<LAN 通信>	30
12. トップカバーの取り外しとラックマウント.....	31
13. 本機の仕様.....	32

1. 同梱物の確認

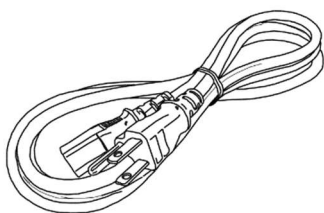
箱から取り出しましたら、次の物が入っていることを確認してください。

万一、内容物に不足品などがありましたら巻末記載の弊社サポートダイヤルまでご連絡ください。

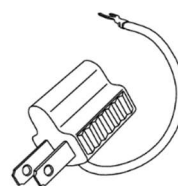
- 本体 NEX-CTR11 … 1台



- 日本国内専用ロック機構付き電源ケーブル … 1本 (3P-3SL)



- 電源 3P-2P 変換プラグ … 1個



- 取扱説明書 (本書) … 1冊

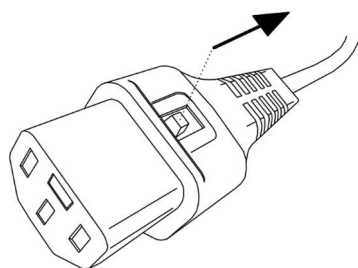


- 保証書 … 1冊



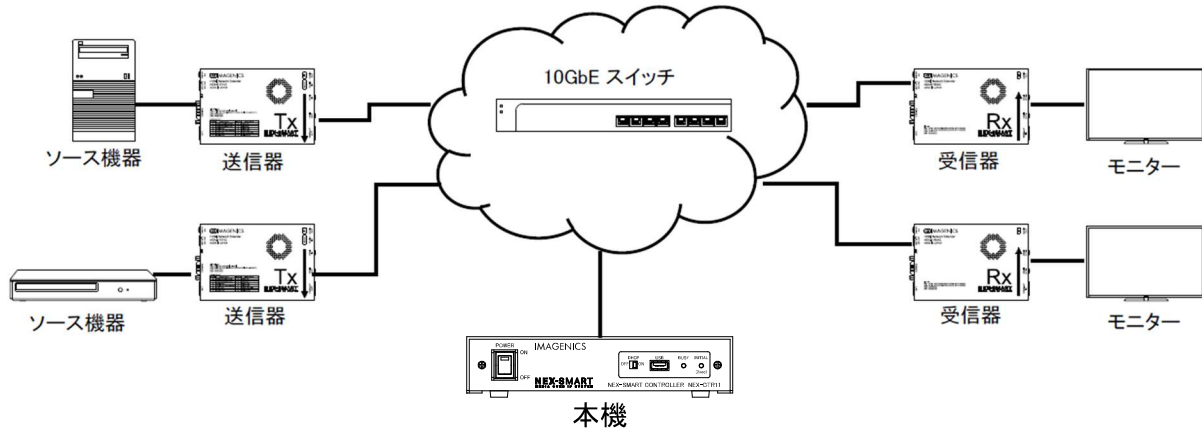
<ロック機能付き電源ケーブル(3P-3SL)について>

本機の電源ケーブル(3P-3SL)には抜け防止ロック機構が付いています。本機 AC 電源入力コネクタ(参照:P.7 ⑧)に差し込むとロックされます。電源ケーブルを取り外す際は、赤いレバーを手前に引きながらケーブルを引き抜きます。



2. 本機の概要と特長

弊社 NEX-SMART 製品を制御するコントローラーユニットです。送信器/受信器・10 ギガビットイーサネットスイッチ (以下 10GbE スイッチ) が構成する LAN に接続することで NEX-SMART 機器全体の制御が可能です(以降本書では、これらの機器で構成されるネットワークを NEX-SMART ネットワークと呼びます)。



※ 本機以外の機器については別途ご購入いただく必要があります。

- 送信器と受信器をマトリックススイッチャーのように接続し、クロスポイントの切り替え操作が可能です。1 台の受信器に対して、映像と音声をそれぞれ別の送信器から送ることが可能です。
- 1 台の送信器を複数台の受信器と接続し、分配器としてお使いいただくことが可能です。
- クロスポイントのパターンを記憶し、一括出力するメモリアウト機能に対応しています。
- 1 つの映像を複数台のモニターにまたがって表示するビデオウォール接続に対応しています。
- 1 つのモニターに複数の映像を分割表示するマルチビュー接続に対応しています。
- Web ブラウザより NEX-SMART 製品の設定・操作を行うことが可能です。パソコン以外にもタブレットなどからの操作が可能です。
- 複数のパソコンまたはタブレットなどから、同時に操作することが可能です。
- Web ブラウザからの設定完了後は、LAN 通信または RS-232C 通信を利用したコマンドによる外部制御が可能になります。別売りの弊社コントローラー、NMC-16、IF-1804 から制御することも可能です(参照:P. 11)。
- 送信器/受信器が装備する RS-232 端子を利用し、外部機器同士の RS-232C 通信を中継することが可能です。1 対 1 接続による双方向通信または 1 対多接続による 1 方向通信が可能です。
- DHCP サーバー機能を有しており、動的な IP アドレスの割り当てが可能です(Class C 相当)。
- 設定をバックアップファイルに保存・復元が可能です。

3. ご使用いただく際の注意点

- ・ 最初に Web ブラウザより RTC 時刻を設定してください。
- ・ NEX-SMART は単一の独立したシステムとして運用してください。NEX-SMART ネットワーク内に他のシステムが存在すると不具合の原因となります。
- ・ NEX-SMART 機器の接続は、単一のネットワークセグメントである必要があります。
- ・ 本機の DHCP サーバー機能を有効にして運用する場合は、NEX-SMART ネットワーク内に他の DHCP サーバー機能を有する機材を接続しないようにしてください。
- ・ 送信器/受信器は DHCP サーバー機能による動的 IP アドレスで動作します。
- ・ NEX-SMART ネットワークに接続できる NEX-CTR11 は 1 台のみとなります。2 台以上接続しないでください。
- ・ NEX-SMART ネットワーク内の 10GbE スイッチは 1 台の構成でご使用ください。10GbE スイッチのスタックは推奨しません。
- ・ 業務用・レジャー用無線機器 (トランシーバー) など強い電波を発生させる機器を近くで使用しないでください。

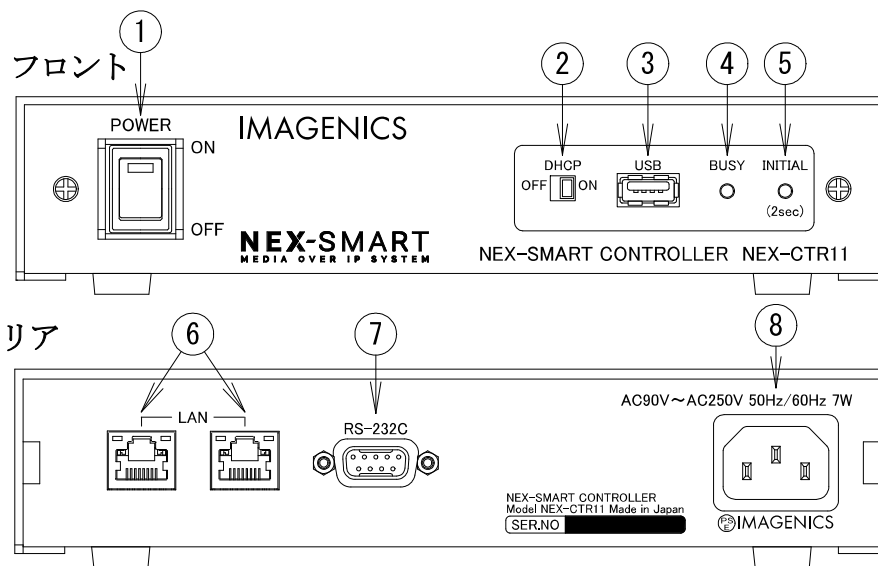
- ・ 本機にLANケーブルを接続する際は、**6. LANケーブルについて**をご覧ください、仕様を守って施工して下さい。
- ・ コイン型電池(参照:P.29)の残量がない状態で使用し続けしないでください。電池の過放電状のまま放置すると液漏れの原因となり、故障や火災につながる場合があります。
- ・ USBコネクタには、USBメモリ以外を接続しないでください。

4. 工場出荷状態に戻す

何らかの理由で本機を工場出荷状態に初期化したい場合は、INITIALスイッチ(参照:P.7⑤)を長押しすることで初期化が可能です。

全ての設定が初期化されますので初期化前に設定ファイルによるバックアップ(参照:P.28)を推奨致します。

5. 各部名称と働き



① 電源スイッチ

付属の電源コードをコンセントに挿した状態で ON 側にすることで、電源ランプ(緑)が点灯し、本機の電源が入ります。OFF 側にすることで本機の電源が切れます。

本機起動中は④BUSY ランプが点灯状態となり初期化を行っています。消灯を待ってから操作を開始してください。

⚠注意

④BUSY ランプが点灯している間は、本機の電源を切らないでください

② DHCP ON/OFF スイッチ

ON にすると DHCP サーバー機能が有効化され、制御対象機器に動的な IP アドレスの割り当てを行います。

DHCP サーバー機能が有効になっている間は、スイッチ上の LED(緑)が点灯します。

スイッチの ON/OFF 状態は本機起動時にのみ識別されます。起動完了後に DHCP ON/OFF スイッチを切り替えても、有効化/無効化を変更することはできません。

NEX-SMART ネットワーク内に他の DHCP サーバー機能を有する機材が存在する場合は、OFF にして運用してください。本機の DHCP サーバー機能は Class C 相当の IP アドレスを配布します。

③ USB コネクタ (USB メモリ専用)

USB メモリを接続することで、設定ファイルのインポートとファームウェアの更新が可能です。USB メモリは FAT32, exFAT 形式でフォーマットされている必要があります。

本コネクタに USB メモリ以外の物を接続しないでください。

⚠注意

④BUSY ランプが点灯している間はUSB メモリを抜き差ししないでください

④ BUSY ランプ

本機の起動中、または重要な処理を実行中に点灯します。

出荷状態への初期化処理中、設定ファイルの取得中、設定ファイルのインポートなどが該当します。

この間本機の電源を切ったり LAN ケーブル、USB メモリを挿抜しないでください。

BUSY ランプが点灯中にも関わらずこれらを挿抜すると、処理が正しく完了しないことがあります。

本機起動後 BUSY ランプが消灯するまでは、Web ブラウザまたは外部制御による 操作を受け付けません。 消灯を待ってから操作を開始してください。

⑤ INITIAL スイッチ

このスイッチを 2 秒長押しすると、本機の設定は出荷状態に初期化されます。

初期化中は BUSY ランプ(参照:P.7 ④)が点灯します。BUSY ランプが消灯するまで電源を OFF にしないでください。

初期化後は全ての送信器/受信器の接続状態を読み込むため、読み込みに時間かかる場合があります。

⑥ LAN 端子 (RJ-45)

仕様は次の通りです。

- ・ 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Te(10BASE-T) で通信可能な LAN 端子を 2 個備えています。内部はレイヤ 2 スイッチングハブと接続されており、2 つの端子に機能的差異はありません。
- ・ 本機を利用するには、どちらか 1 つの端子を送信器、受信器、または 10GbE スイッチに接続する必要があります。詳しくは **7. NEX-SMART 機器との接続方法** をご参照ください。
- ・ Auto MDI/MDI-X、オートネゴシエーションに対応しています。
- ・ 接続する LAN ケーブルの推奨仕様は **6. LAN ケーブルについて** をご参照ください。

⚠注意

BUSY ランプ(参照:P.8 ④)が点灯している間はLAN ケーブルを抜き差ししないでください

⑦ RS-232C 端子 (D-sub9 極 オスコネクタ)

RS-232C シリアル通信用の D-sub 9 極 オスコネクタです。

NEX-SMART 全体の設定が完了している場合、このコネクタから外部制御が可能です(参照:P.11)。

ピンアサインなどの詳細は **11. シリアル通信による外部制御** をご参照ください。

⑧ AC 電源入力コネクタ

付属の電源ケーブルで AC 100 V 50 Hz・60 Hz に接続して、本機に電源を給電します。

AC 100 V 以外でご使用になられる場合には、電源コードの変更などが必要になります。

⚠ AC 100 V 以外でのご使用をご希望の場合には、必ず弊社サポート窓口までご相談ください。

6. LAN ケーブルについて

本機に接続する LAN ケーブルは、下記要件を守ってお使いください。

- 10BASE-T(10BASE-T)/100BASE-TX でお使いになる場合は CAT5 規格以上、1000BASE-T でお使いになる場合は CAT5e 規格以上のケーブルが必要です。本機は Auto Negotiation 機能により通信速度が最大になるよう接続を試みるため、CAT5e ケーブルでの接続を推奨致します。
- ケーブル長は 100 m 以内でご使用ください。
- ノイズ源から離れた場所で、なおかつ他のケーブルとなるべく離して敷設してください。
- 必要最小限の長さで接続してください。ケーブルをとぐる巻き状態にするとノイズの影響を受けやすくなります。
- 小さく曲げないでください。曲げ半径は外径の 4 倍以上にしてください。
- ケーブルを結束する場合、結束具で強く締めないでください。
- ケーブルは強く引っ張らないでください。施工時は 110 N(約 11 kg)以下の張力としてください。

※本機と NEX-SMART ネットワークへの接続は CAT5・CAT5e 規格以上のケーブルで動作しますが、NEX-01T/HC・NEX-01R/HC をご利用いただく場合は CAT6A 規格のケーブルが必要です。詳しくは NEX-01T/HC・NEX-01R/HC の説明書をご参照ください。

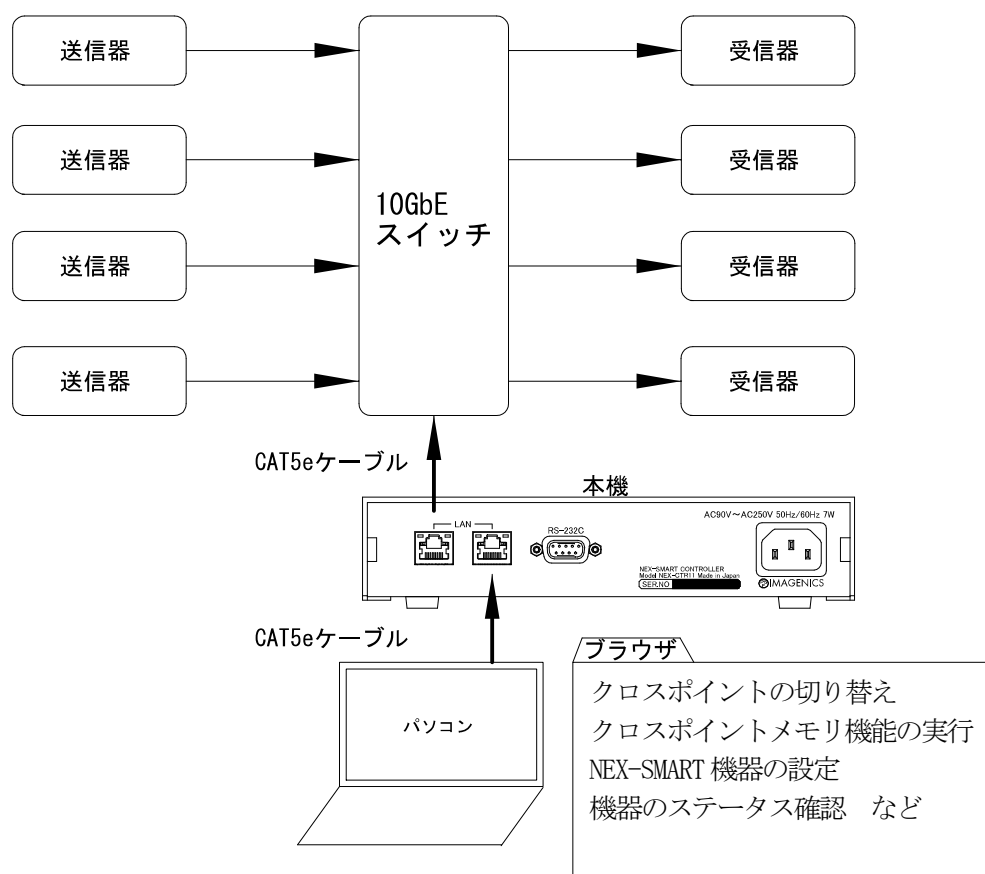
7. NEX-SMART 機器との接続方法

- 本機に装備されている 2 つの LAN 端子(参照:P.8 ⑥)のうち、一方を送信器、受信器、10GbE スイッチのいずれかに接続する必要があります。送信器/受信器に接続してご利用いただくことも可能ですが、接続した 1 台が故障するだけでシステム全体が制御不能となるため、10GbE スイッチに接続して運用することを推奨します。
- 本機に装備されている 2 つの LAN 端子のうち、他方を設定用パソコンと接続することで、Web ブラウザより NEX-SMART 機器の設定を行うことができます。設定用パソコンは 10GbE スイッチに直接接続しても動作しますが、本機の LAN 端子に接続することで 10GbE スイッチの LAN ポートを 1 つ節約することができます。

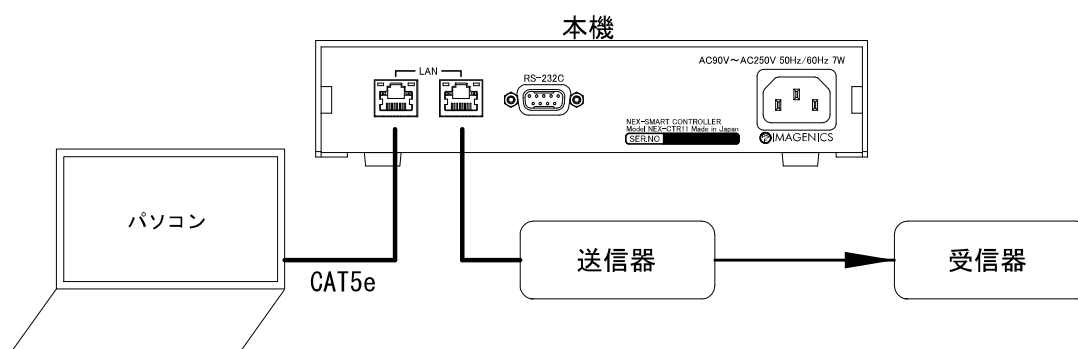
注意事項

- ・ 本機とは別に DHCP サーバー機能を有する機器が接続される場合は、DHCP スイッチ(参照:P.7 ②)を OFF にして運用してください。
- ・ 本機の DHCP サーバー機能を有効にする場合は、DHCP サーバー割り当て範囲内(参照:P.28)に、固定 IP アドレス機器が存在しないようにする必要があります。
例えば 外部制御機器、制御用パソコンなどを固定 IP アドレスで運用したい場合は、本機 DHCP サーバー割り当て範囲外になるように固定 IP アドレスを設定する必要があります。
- ・ <推奨接続例>は制御用パソコン 1 台からの接続例となります。一般ユーザー (参照:P.13)であれば、複数のパソコンまたはタブレットなどから同時に操作することが可能です。

<推奨接続例>



<単純な延長器として利用する場合>



単純な延長器として利用する場合は 10GbE スイッチを使わずにご利用いただくことも可能です。
 (送信器/受信器の映像・音声設定を変更しない場合は、本機の接続も不要です。)

8. 外部制御機器との接続例

本機に対し RS-232C 通信または LAN 通信よりコマンドを送ることで、制御用パソコンなどを必要としない外部制御が可能です。

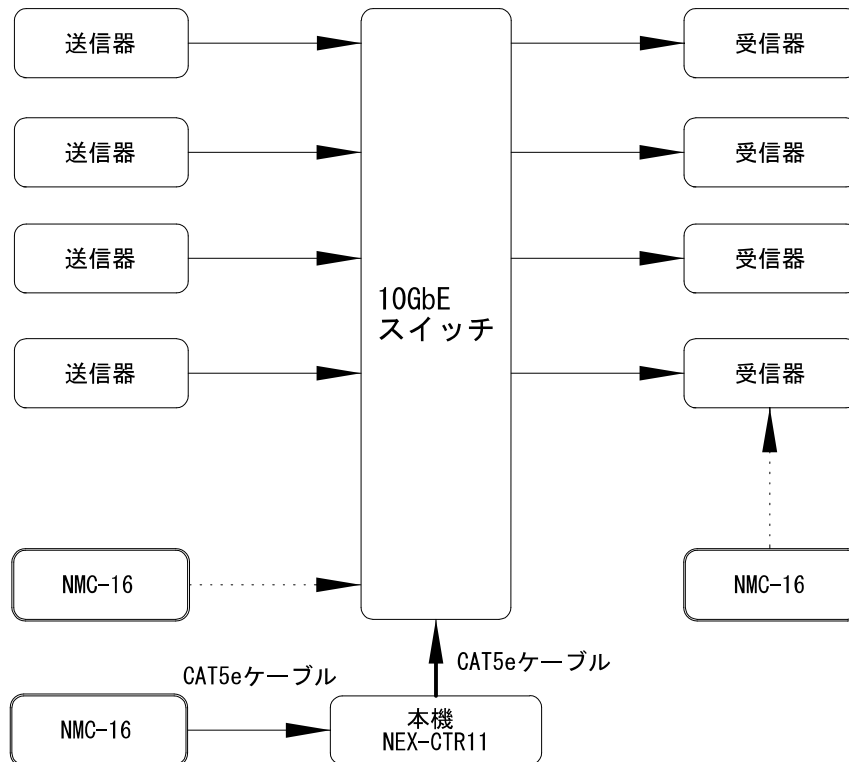
<外部制御機器との LAN 通信>

LAN 通信を通じて本機へコマンドを送信することで外部制御が可能となります。

RS-232C からの外部制御または Web ブラウザからの操作と併用してご利用いただくことも可能です。

一例として弊社マルチネットワークコントローラーの NMC-16 (別売り) による接続の例を紹介します。

<接続例>



NMC-16 は 1 台でも複数台でも接続可能です

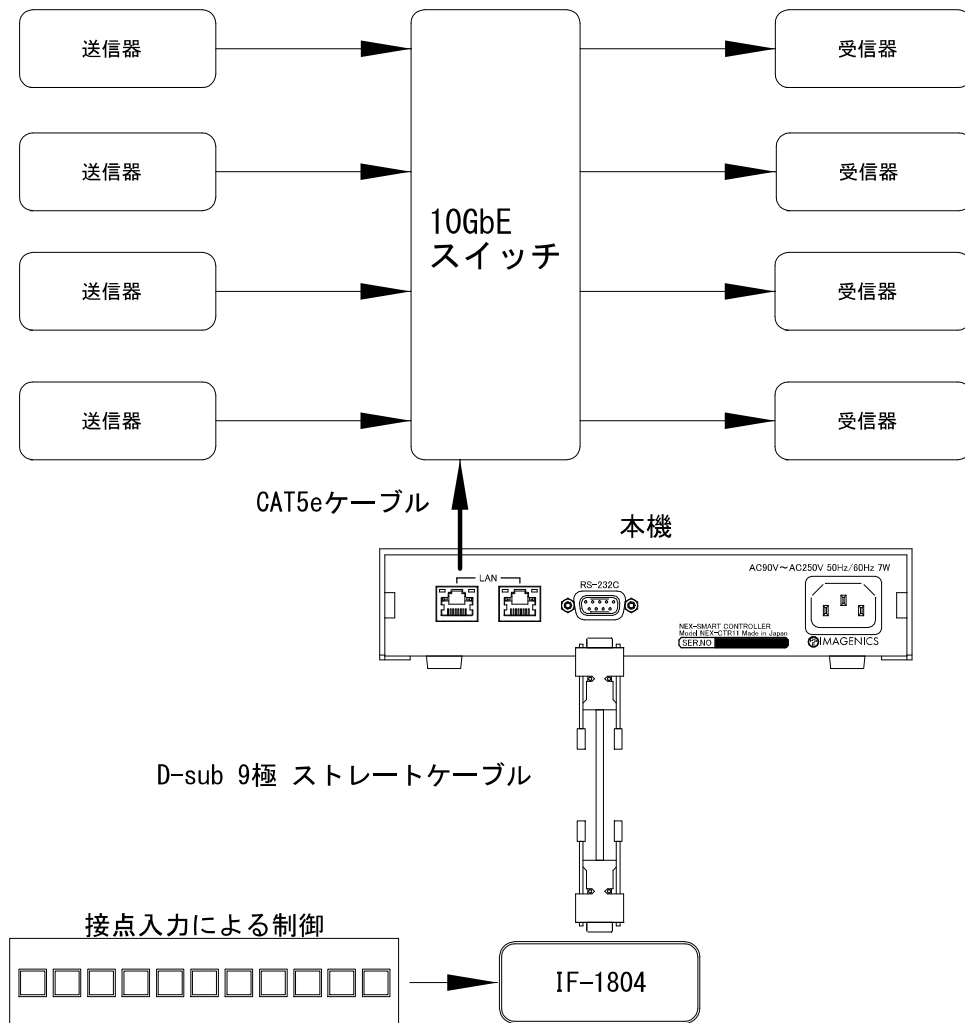
<外部制御機器との RS-232C 通信>

RS-232C 通信を利用する場合は、本機の RS-232C 端子 (参照:P. 7 ⑦) を通じてコマンドを送信することで外部制御が可能となります。接続する際にはお使いになる外部制御機器と本機のピンアサイン (参照:P. 29) に注意し、適切なケーブルをご利用ください。

LAN 通信による外部制御または Web ブラウザからの操作と併用してご利用いただくことも可能です。

一例として弊社製品、接点—シリアルインターフェイス IF-1804 (別売り) による外部接続の例を紹介します。

<推奨される接続例>



9. Web ブラウザからの接続

本機を NEX-SMART 機器に接続した状態(参照:P. 10 推奨接続例)では、パソコンやタブレットなどの Web ブラウザから NEX-SMART 機器全体の設定・操作を行うことができます。TCP/80 ポートを使用します。

(※本書内のブラウザ画像はバージョンアップなどに伴い差異が生じる場合がございます。予めご了承ください)

<推奨環境>

- **Web ブラウザ**

Google Chrome 80.0.3987.163(Official Build)での動作を確認しています。

- **画面サイズ**

最小幅 1200 ピクセル以上推奨。

- **操作全般の注意事項**

ブラウザの戻るボタン、更新ボタンは使わずに、メニューボタン(参照:P. 15)またはメニューアイコンをご利用ください。操作中に戻る・更新ボタンを使ったり、ブラウザを閉じたり、画面遷移した場合は、正常に処理が完了しない可能性があります。

操作画面の多重起動も可能ですが、複数のブラウザから一度に集中した操作を行うと、動作が不安定になる場合があります。

<Web ブラウザでのアクセス方法>

- <推奨接続例>を参考に、制御用のパソコンを接続してください。
- 本機の出荷状態での IP アドレスは 192.168.1.3/24 となっています。初回接続時は制御用パソコンの IP アドレスが、同じネットワークセグメント(192.168.1.xxx)である必要があります。
- 本機の DHCP サーバー機能を有効にした状態、なおかつ制御用パソコンを固定 IP アドレスで運用する場合は、制御用パソコンの IP アドレスが送信器/受信器及び本機の IP アドレスと重複しないように設定する必要があります。IP アドレス割り当て範囲はシステム設定画面にて設定可能です(参照:P. 27)。

<ログイン画面とアカウント>

Web ブラウザに <http://192.168.1.3> (出荷状態の初期値) を入力すると次のようなログイン画面が表示されます。ログインすることで操作画面へと進みます。



後述の2つのログイン用 ID が用意されており、それぞれ操作できる機能の範囲が異なります。ログイン状態が 24 時間以上経過すると、強制的なログアウトが発生します。

<アカウント設定画面>より「ログイン確認をしない」にチェックを入れることで、次回より未ログイン状態でも一部の操作が可能となります。

○管理ユーザー

ユーザー名 (ID): admin パスワード: admin (初期値)

- ・ 全ての画面にアクセス可能です。
- ・ 管理ユーザーは 1 アカウントのみログイン可能です。同時に複数のブラウザからログインすることはできません。ログイン中に別のブラウザから管理ユーザーのログインがあった場合、後からのログインが優先され、先にログインしていた管理ユーザーは強制的にログアウトされます。

○一般ユーザー

ユーザー名 (ID): user パスワード: password (初期値)

- ・ クロスポイント画面 (参照:P. 17)、クロスポイントメモリ画面 (参照:P. 20)、マルチビュー画面 (参照:P. 20)、ビデオウォール画面 (参照:P. 21) にアクセス可能です。各種設定画面にはアクセスできません。
- ・ 複数のパソコンまたはタブレットなどから同時ログイン可能です。

○未ログイン

ログイン画面でログインしない時、または管理ユーザー、一般ユーザーでログインした状態でログイン/ログアウトアイコン (参照:P. 15) からログアウトすることで未ログイン状態となります。

未ログイン状態では基本的に本機を操作できません。

ただし<アカウント設定画面>より「ログイン確認をしない」にチェックを入れることでログインせずに本機を操作可能になります。ただし操作可能な範囲は一般ユーザーと同等です。

以降、本書での一般ユーザーの説明は、このログイン省略時の状態も含めます。




⚠注意事項

- ※ 管理ユーザー、一般ユーザー共に、パスワードは<アカウント設定画面>で変更可能です。パスワードは出荷状態から変更して運用することを推奨致します。
- ※ 1つの端末(パソコンなど)からログインできる ID は 1つのみとなります。操作画面を多重起動しても、管理ユーザーと一般ユーザーは共存せず、どちらか一方でのみログインされます。
- ※ 複数の一般ユーザーが集中的に操作を行うと本機の動作が不安定になる場合があります。

<画面の構成>

ログイン後は操作画面に移行します。

操作画面は下表のような構成となっています。表内アイコンはメニューアイコン(参照:P. 15)のものとなります。

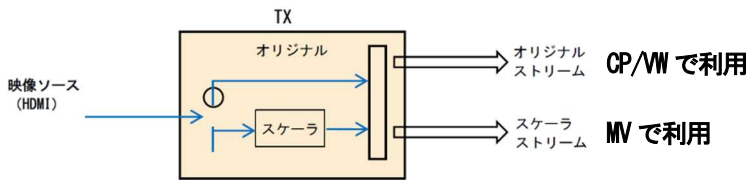
アクセス権	アイコン	画面名	主な機能
管理ユーザー 一般ユーザー		クロスポイント画面 (参照:P. 17)	送信器/受信器のクロスポイント操作
		クロスポイントメモリ画面 (参照:P. 20)	クロスポイントメモリカードによるメモリアウトの実行
		マルチビュー画面(参照:P. 20)	マルチビューカードによるマルチビューの実行
		ビデオウォール画面(参照:P. 21)	ビデオウォールカードによるビデオウォールの実行
管理ユーザー		機器設定画面 (参照:P. 23)	送信器/受信器の詳細設定
		クロスポイントメモリ設定画面 (参照:P. 26)	クロスポイントメモリカードの作成と編集 (メモリインの実行)
		マルチビュー設定画面 (参照:P. 26)	マルチビューカードの作成と編集
		ビデオウォール設定画面 (参照:P. 26)	ビデオウォールカードの作成と編集
		RS-232C 接続設定画面(参照:P. 27)	送信器/受信器のRS-232C 通信中継設定
		システム設定画面 (参照:P. 27)	本機の詳細設定
		アカウント設定画面 (参照:P. 28)	ログインパスワードの変更

ログイン後に表示される画面はデフォルト画面と呼ばれ、システム設定画面にて変更可能です。

出荷状態ではクロスポイント画面に設定されています。

<用語説明>

以降、本書で扱う用語について説明します。

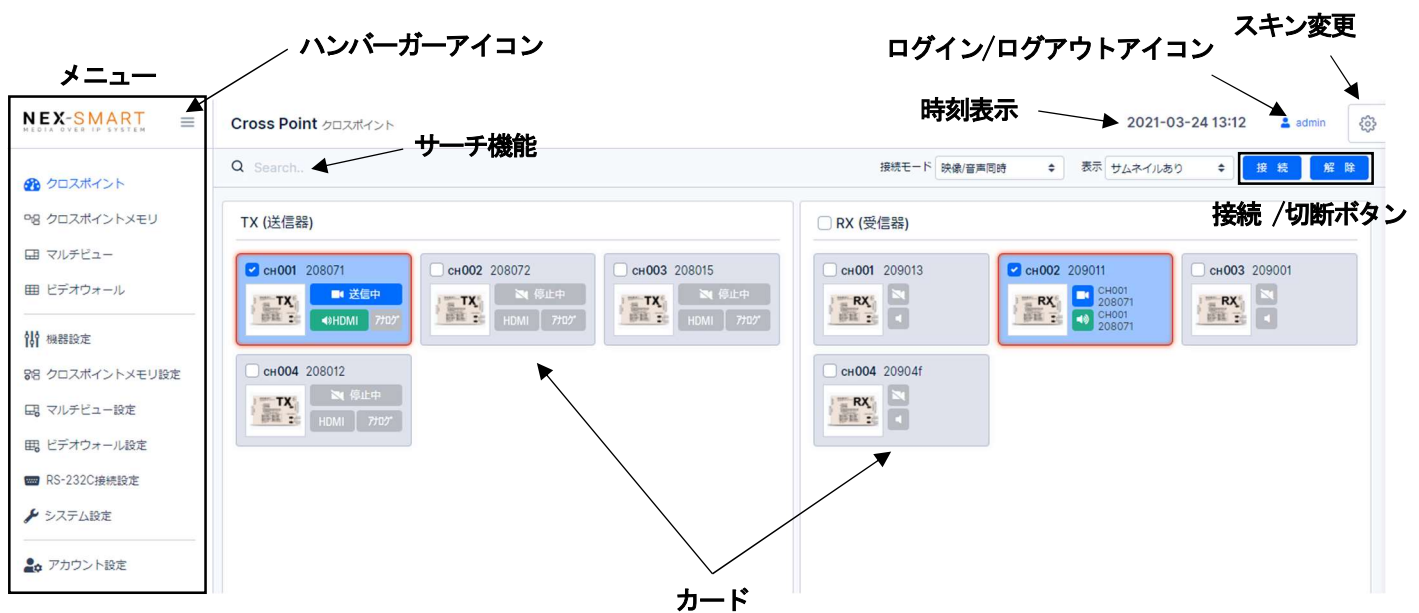
用語	説明
クロスポイント(CP)	1 台の送信器と 1 台または複数台の受信器を接続します。映像接続と音声接続を別々に管理可能です。1 つのモニターに 1 つの映像を表示します。
クロスポイントメモリ	作成したクロスポイントを記憶し、一括出力します。映像と音声、両方を記憶可能です。
マルチビュー(MV)	1 台の受信器と複数台の送信器を接続します。1 つのモニターに複数の映像を分割表示します。マルチビューは映像接続に対してのみ設定可能です。
ビデオウォール(VW)	1 台の送信器と複数の受信器を接続します。1 つの映像を複数台のモニターにまたがって表示します。ビデオウォールは映像接続に対してのみ設定可能です。
映像ソース	送信器に入力する映像信号です。
オリジナルストリーム スケーラストリーム	送信器は下図のように映像ソースを 2 つのストリームに分けて配信します。  オリジナルストリームは映像ソースをそのまま配信します。 スケーラストリームは映像ソースをスケーリングして配信します。

送信器の帯域超過	送信で使用する帯域が 10Gbps を超えてしまい正常な映像を出力できなくなることがあります。 これを送信器の帯域超過と呼びます。
受信器の帯域超過	受信で使用する帯域が 10Gbps を超えてしまい正常な映像を出力できなくなることがあります。 これを受信器の帯域超過と呼びます。
フレームレート コンバーター	送信器から配信するストリームのフレームレートを半分にする機能です。 オリジナルストリームとスケーラストリームに設定可能です。

<操作画面 共通項目>

クロスポイント画面、マルチビュー画面、ビデオウォール画面、で共通して表示される項目について説明します(一部構成が異なる画面もあります)。

下画像はクロスポイント画面を例に解説しています。



項目	説明
メニュー	最上部のハンバーガーアイコンをクリックするとメニューが展開されます。 各項目をクリックすると対応する画面に遷移します。 最上部のNEX-SMARTのロゴをクリックするとデフォルト画面へ遷移します。 メニューが展開された状態でもう一度ハンバーガーアイコンをクリックするとメニューが閉じられますが、残ったアイコンからも各画面へ遷移可能です。 全ての操作画面で常に表示されています。
カード	本機では送信器や受信器などの情報をまとめてカードとして表示しています。 カード同士を接続/解除することで、NEX-SMART機器を制御します。
検索機能	各カードに含まれる、名前、タグ、コメント、IPアドレス、MACアドレスから、指定した文字列を検索します。各項目の詳細は後述のカード説明にて解説します。
ログイン/ログアウトアイコン	本機Web画面からログアウトまたはログインします。 ログアウトしても送信器/受信器の接続状態は維持されます。
時刻表示	現在時刻を表示します。 お使いの機器(パソコンやタブレットなど)のシステム時間を参照します。
接続/解除ボタン	選択状態にあるカード同士を接続/解除します。 なお接続については、カード同士をドラッグ&ドロップしても接続状態になります。
スキン変更	操作画面のスキンをライトモードまたはダークモードに変更できます。

<操作画面 共通操作>

クロスポイント画面 (参照:P. 17)、マルチビュー画面(参照:P. 20)、ビデオウォール画面(参照:P. 21)、では、各画面に存在するカード同士を接続/解除することで操作を行います。

カードを接続/解除する方法は「接続ボタンを利用する方法」と「ドラッグ&ドロップを利用する方法」があります。次の手順で操作可能で、各画面共通となります。

1. 接続したい画面左側のカードと右側のカードをクリックして選択状態にします。
2. 選択状態で「接続ボタン」をクリックすると接続されます。
またはTXカードとRXカードをドラッグ&ドロップで重ねることも接続状態になります。
3. 解除する場合は解除したいカードを選択して「解除ボタン」をクリックします。

●接続ボタンを利用する方法



●ドラッグ&ドロップを利用する方法

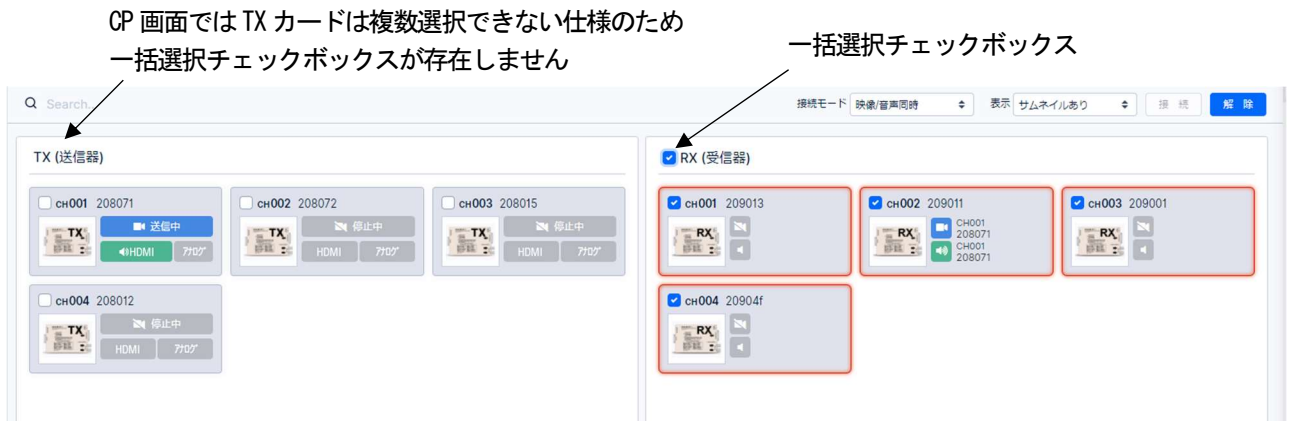


●カードの複数選択

クロスポイント画面 (参照:P. 17)、マルチビュー画面(参照:P. 20)、では、RXカードを複数選択可能です。この時複合的な操作として、複数選択されたカード群に対し、ドラッグ&ドロップするといった方法でも接続操作が可能です。



また下画像のようにカード群の上部に一括選択チェックボックスがある場合は、チェックすることでカードが一括選択されます。



どの操作画面においてもカード同士が接続される時、カードの接続に含まれる送信器はオリジナルストリームまたはスケラストリームの配信を自動的に開始します。

<クロスポイント画面>

クロスポイント接続の操作画面です。

RX カードのみ複数選択して接続可能です。この場合は1つ送信器の映像ソースを複数の受信器で共有する動作となるため分配器として利用可能です。

[クロスポイント画面の解説]



項目	説明	
接続モード	接続ボタンまたは解除ボタンをクリックした時、送信器と受信器の映像・音声をどのように接続/解除するかを選択します。	
表示	TX カード、RX カードをどのように表示するか選択できます。 「サムネイルあり」「サムネイルなし」「リスト表示」の3タイプが存在し、次のような特徴があります。各項目は<機器設定画面>にて設定可能です。	
	サムネイルあり	チャンネル番号、名前、サムネイル、映像アイコン、音声アイコンを表示します。
	サムネイルなし	チャンネル番号、名前、映像アイコン、音声アイコンを表示します。
	リスト表示	チャンネル番号、名前、IP アドレス、MAC アドレス、タグ、コメント、映像アイコン、音声アイコンを表示します。

次ページの画像は「表示」を「リスト表示」にした時の送信器です。

また「表示数」のスピンボタンより1画面に表示するカードの数を設定することが可能です。

コメント、タグについては<機器設定画面>にて解説します。



[TX カードの解説]

送信器の状態を表示します。この画像は「表示」が「サムネイルあり」で、映像と HDMI 音声を送信している時のものです。



TX カードは次のような動作仕様となっています。

- 送信器の情報を表示しています。クリックすると選択状態になります。
- 同じ TX カードをクリックするか、何もない空白をクリックすることで選択状態を解除できます。
- TX カードを一度に複数選択することはできません。
- 過去に認識したことのある機器がオフラインの場合はグレーアウトして表示されます。
- 映像・音声の出力状態をアイコンで表示します。

項目	説明
チェックボックス	選択状態になるとチェックされます。
CH(チャンネル)番号	機器を識別するための固有番号です。認識順に割り当てられます。外部制御する時は、この番号を参照して機器を識別します。機器設定画面の CH 番号編集より変更可能です。
名前	カードの名前です。機器設定画面より変更可能です。デフォルトでは機器の MAC アドレス下 6 桁が参照されて付与されます。
サムネイル	カードに表示する画像です。機器設定画面より変更可能です。
HDMI 音声アイコン	HDMI 音声送信中は緑色になります。送信していない場合はアイコンがグレーアウトします。
アナログ音声アイコン	アナログ音声送信中は紫色になります。送信していない場合はアイコンがグレーアウトします。
エラーステータス	機器ステータスよりエラーを検出した場合に表示されます。通常表示されません。マウスカーソルを重ねることで内容を確認することができます。詳細は [TX/RX カード デバイス] をご参照ください
映像アイコン	詳細は次ページ表を参照

TX カードの映像アイコンは、送信器の状態によって下表のように変化します。

映像アイコン	説明
	オリジナルストリームの配信を停止している状態です。
	オリジナルストリームを配信している状態です。
	送信器の使用帯域が規定値を超えている場合は警告アイコンになります。
	オリジナルストリームを配信中かつ受信器と CP 接続されている状態です。
	送信器の使用帯域が規定値を超えている場合、橙色になり警告アイコンが表示されます。

[RX カードの解説]

受信器の状態を表示します。この画像は「表示」が「サムネイルあり」で、クロスポイント接続によって TX カードの CH001 より映像とアナログ音声を受信している時のものです。



RX カードは次のような動作仕様となっています。


- 受信器の情報を表示しています。クリックすると選択状態になります。
- 同じ RX カードをクリックするか、何もない空白をクリックすることで選択状態が解除されます。
- RX カードではチェックボックスまたはチャンネル番号をクリックすることで、同時に複数の RX カードを選択することが可能です。
複数の RX カードを選択している状態でチェックボックスまたはチャンネル番号以外をクリックすると、複数選択状態が解除されます。
- 過去に認識したことのある機器がオフラインの場合はグレーアウトして表示されます。
- 映像・音声の受信状態をアイコンで表示します。

TX カードの説明と重複する項目は省略しています。

項目	説明
音声アイコン	HDMI 音声受信中は緑色になり、アナログ音声受信中は紫色になります。何も受信していない場合はアイコンがグレーアウトします。 送信元のチャンネル番号と名前を表示します。
映像アイコン	映像受信中は送信元のカードチャンネル番号と名前を表示します。 詳細は次ページ表を参照

RX カードの映像アイコンは、受信器の状態によって下表のように変化します。

映像アイコン	説明
	クロスポイント接続で動作中です。 TX カードと接続中はチャンネル番号と名前が表示されます。 接続中の送信器に映像ソースが入力されていて、オリジナルストリームを受信している時はアイコンが青色になります。
	マルチビュー接続で動作中です。 MV カードと接続中はチャンネル番号と名前が表示され、アイコンが紺色になります。

	<p>ビデオウォール接続で動作中です。 ビデオウォールカードと接続中はチャンネル番号と名前が表示されます。</p>
---	---

<クロスポイントメモリ画面>

クロスポイントメモリとは、予め登録しておいたクロスポイント接続へ全機器を一括変更する機能です。この動作をメモリアウトと呼びます。

<クロスポイントメモリ設定画面> (参照:P.26)にて、予めクロスポイントメモリカードを作成(メモリインと呼びます)しておく必要があります。出荷状態では何もメモリインされておられません。

<マルチビュー画面>

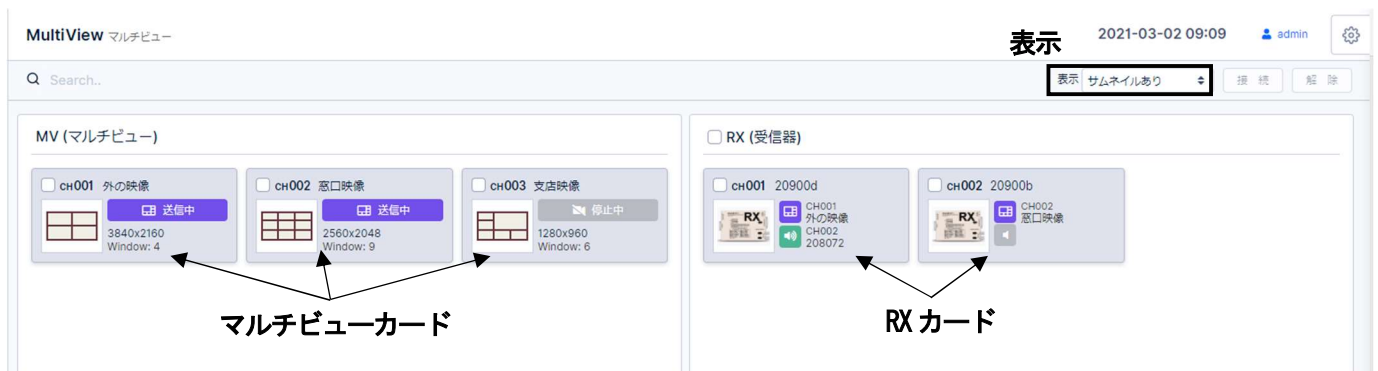
マルチビュー接続を操作可能です。RX カードのみ複数選択可能です。マルチビューを実行するには**<マルチビュー設定画面>**にて、予めマルチビューカードを作成しておく必要があります。出荷状態ではマルチビューカードは作成されておられません。

⚠注意事項

マルチビュー接続を利用する場合は帯域超過に注意する必要があります。

[マルチビュー画面の解説]

画像は予めマルチビューカードを作成して表示を「サムネイルあり」にした時の一例です。



右側RX カードはクロスポイント画面と同一仕様です。「表示」の項目のみ一部仕様が異なります。

項目	説明
表示	「サムネイルあり」「サムネイルなし」「リスト表示」の3タイプが存在し、次のような特徴があります。MV カードの各項目は <マルチビュー設定画面> にて設定可能です。
サムネイルあり	チャンネル番号、名前、サムネイル、映像アイコン、MV 情報(次項解説)を表示します。
サムネイルなし	チャンネル番号、名前、映像アイコン、MV 情報を表示します。
リスト表示	チャンネル番号、名前、タグ、コメント、映像アイコン、MV 情報を表示します。

[マルチビューカードの解説]

マルチビューの送信状態を表示します。この画像は表示が「サムネイルあり」の時のものです。



MV カードは次のような動作仕様となります。

- MV の情報を表示しています。クリックすると選択状態になります。
MV カードが選択状態になると次のような変化があります。
 - ・ チェックボックスがチェックされます。
 - ・ TX カードに赤枠が表示されます。
 - ・ 青背景になります。この時マルチビュー接続中の RX カードが存在する場合、連動して青背景になります。
- 同じ MV カードをクリックするか、何もない空白をクリックすることで選択状態を解除できます。
- MV カードを一度に複数選択することはできません。
- マルチビューの出力状態を映像アイコンで表示します。
- RX カードにドラッグ&ドロップすると接続状態になります。

項目	説明
CH(チャンネル)番号	MV カードを識別するための固有番号です。 外部制御する時は、この番号を参照して MV カードを識別します。
名前	MV カードの名前です。
サムネイル	カードに表示される画像です。MV の分割ウィンドウのレイアウトが参照されて自動的に挿入されます。
MV 情報	設定した出力解像度とウィンドウ数を表示します。
映像アイコン	詳細は次の表を参照

※TX、RX カードと重複する項目は省略しています。各項目は<マルチビュー設定画面>にて変更可能です。

MV カードの映像アイコンは状態によって下表のように変化します。

映像アイコン	説明
 	この MV カードのスケラストリームを受信している RX カードが1つもない状態です。 MV カードに含まれる送信器の使用帯域が規定値を超えている場合、警告アイコンが表示されます。本機起動直後や接続中の MV カードをマルチビュー設定画面にて編集した場合など、MV カード情報を正しく取得できない場合は、未接続かつストリーム未送信として扱われます。
 	スケラストリームを配信中かつ RX カードとマルチビュー接続している状態です。 接続先の受信器または MV カードに含まれる送信器の使用帯域が規定値を超えている場合、橙色になり警告アイコンが表示されます。 この時送信器の帯域超過が発生している可能性があります。

※マルチビュー画面の RX カードについては、クロスポイント画面の RX カードと同じ動作となります(参照:P. 19)。

<ビデオウォール画面>

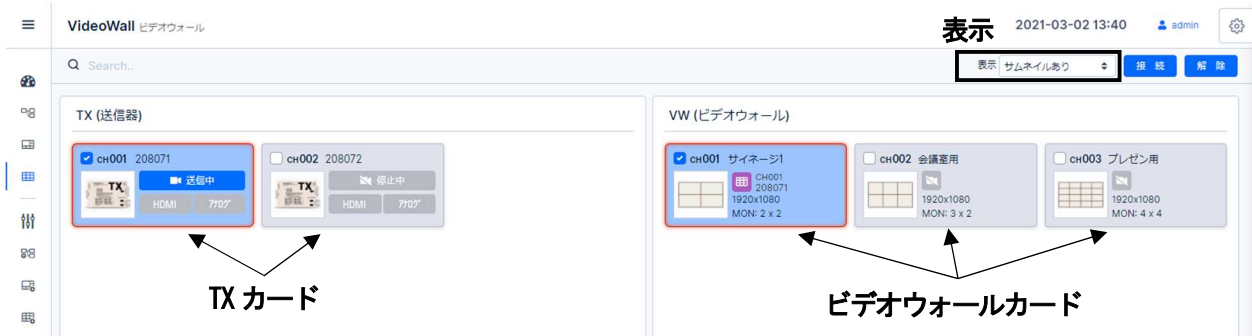
ビデオウォール接続を操作可能です。

ビデオウォールを実行するには<ビデオウォール設定画面>にて、予めビデオウォールカードを作成しておく必要

があります。出荷状態ではビデオウォールカードは作成されておりません。

[ビデオウォール画面の解説]

下画像は予めビデオウォールカードを作成して表示を「サムネイルあり」にした時の一例です。



左側 TX カードはクロスポイント画面と統一仕様です。「表示」項目のみ一部仕様が異なります。

項目	説明
表示	「サムネイルあり」「サムネイルなし」「リスト表示」の 3 タイプが存在し、次のような特徴があります。VW カードの各項目は<ビデオウォール設定画面>にて設定可能です。
サムネイルあり	チャンネル番号、名前、サムネイル、映像アイコン、VW 情報(次項解説)を表示します。
サムネイルなし	チャンネル番号、名前、映像アイコン、VW 情報を表示します。
リスト表示	チャンネル番号、名前、タグ、映像アイコン、VW 情報を表示します。

[ビデオウォール画面 TX カードの解説]

ビデオウォール画面における TX カードの映像アイコンは、クロスポイント画面のものと一部の挙動が異なります。映像アイコン以外の動作はクロスポイント画面の TX のカード (参照:P. 18) と同じです。

映像アイコン	説明
	オリジナルストリームの配信を停止している状態です。
	オリジナルストリームを配信している状態です。
	送信器の使用帯域が規定値を超えている場合は警告アイコンになります。この時送信器の帯域超過が発生している可能性があります。
 	映像ソースが入力されていて、オリジナルストリームを配信中かつ受信器と VW 接続されている状態です。 送信器の使用帯域が規定値を超えている場合、橙色になり警告アイコンが表示されます。この時送信器の帯域超過が発生している可能性があります。

[ビデオウォールカードの解説]

ビデオウォールの受信状態を表示します。この画像は表示が「サムネイルあり」の時のものです。



VW カードは次のような動作仕様となっています。

- VW の情報を表示しています。クリックすると選択状態になります。
VW カードが選択状態になると次のような変化があります。
 - ・ チェックボックスがチェックされます。
 - ・ VW カードに赤枠が表示されます。
- 同じVW カードをクリックするか、何もない空白をクリックすることで選択状態を解除できます。
- ビデオウォールの受信状態を映像アイコンで表示します。
- TX カードにドラッグ&ドロップすることで接続状態になります。

項目	説明
CH(チャンネル)番号	VW カードを識別するための固有番号です。 外部制御する時は、この番号を参照してVW カードを識別します。
名前	VW カードの名前です。
サムネイル	カードに表示される画像です。VW分割数が参照されて自動的に挿入されます。
VW 情報	解像度とVW分割数を表示します。
映像アイコン	詳細は次の表を参照

※TX、RX カードと重複する項目は省略しています。各項目は<ビデオウォール設定画面>にて変更可能です。

VW カードの映像アイコンは状態によって下表のように変化します。

映像アイコン	説明
	TX カードと接続されている時はチャンネル番号と名前を表示します。
	接続先の送信器に映像ソースが入力されていて、オリジナルストリームを受信している時はアイコンが紫色になります。
	VW カードの設定通りに動作してない場合は、警告アイコンになります(VW の一部を CP 接続などで崩した場合が該当します)。 本機起動直後や接続中の VW カードをビデオウォール編集画面にて編集した場合など、VW カード情報を正しく取得できない場合は、未接続として扱われます。

<機器設定画面>

機器設定画面では、送信器/受信器の設定の確認と変更が可能です。

下画像は「表示」を「サムネイルあり」にした時ものです。TX カード、RX カード共に複数同時選択可能です。



項目	説明	
TX カード	オンラインの送信器または過去に認識したことがあるオフラインの送信器を表示します。オフラインの場合はグレーアウトして表示します。	
RX カード	オンラインの受信器または過去に認識したことがあるオフラインの受信器を表示します。オフラインの場合はグレーアウトして表示します。	
一括選択	TX カードまたは RX カードを一括選択できます。	
編集アイコン	クリックすることで送信器または受信器の設定の確認、変更が可能です。	
メニュー	クリックすると「編集」「追加」「複製」「削除」「CH 番号編集」「再起動」の実行が可能です。「CH 番号編集」を除き、実行には最低 1 つ以上の TX カードまたは RX カードが選択されている必要があります。送信器、受信器共に複数選択して実行可能です。詳細は【機器設定 メニュー】にて解説します。	
表示	TX カード、RX カードをどのように表示するか選択できます。「サムネイルあり」「サムネイルなし」「リスト表示」の 3 タイプが存在し、次のような特徴があります。	
	サムネイルあり	チャンネル番号、名前、サムネイル、MAC アドレスを表示します。
	サムネイルなし	チャンネル番号、名前、MAC アドレスを表示します。
	リスト表示	チャンネル番号、名前、IP アドレス、MAC アドレス、タグ、コメントを表示します。

[TX カード オペレーション]

TX カードの編集アイコンをクリックする、または TX カードを選択した状態でメニューから「編集」を選択することで TX カードの詳細を確認できます。



[RX カード オペレーション]

RX カードの編集アイコンをクリックする、または RX カードを選択した状態でメニューから「編集」を選択することで RX カードの詳細を確認できます。「オペレーション」タブでは以下の項目を確認、編集できます。



[TX/RX カード デバイス]

デバイスタブでは下記機器情報を確認できます。内容を編集することはできません。下画像はTX カードのデバイスタブとなります(RX カードでは一部の項目が存在しません)。「デバイス」タブの詳細を以下に示します。



項目	説明
CH 番号	カードのチャンネル番号を表示しています。
CPU Ver FPGA Ver	CPU FPGA のバージョン情報です。弊社保守作業用です。
機器ステータス	機器の状態を数値で取得します。主に弊社保守作業で利用されます。初期値は「不明」となっています。「ステータス更新ボタン」をクリックすることでステータスを数値で取得できます。0 以外を取得した場合はカード右上に警告アイコンとして表示されます。
0	正常に動作しています。
201	機器温度が仕様限界を超えている可能性があります。設置環境を見直し、空調システムの併用などをご検討ください。
解像度 色空間 色深度 (TX カードのみ)	入力されている映像信号の情報を表示します。
HDCP (TX カードのみ)	入力されている映像信号の HDCP 情報を表示します。

[TX/RX カード ネットワーク]

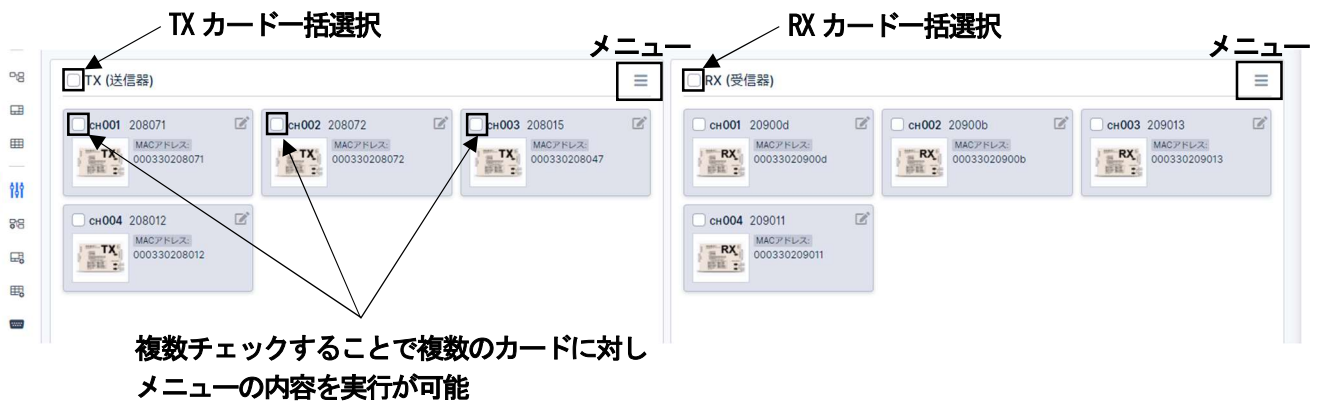
ネットワークタブでは下記機器情報を確認できます。内容を編集することはできません。「デバイス」タブの詳細を以下に示します。

オペレーション		デバイス		ネットワーク	
ネットワーク					
MACアドレス	000330208016	サブネットマスク	255.255.255.0		
モード	DHCP	デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1		
IPアドレス	192.168.1.159				

項目	説明
MAC アドレス	対象機器の MAC アドレスを表示します。
モード	IP アドレスの動作モードを表示します。本機を利用する場合は必ず DHCP となります。
IP アドレス サブネットマスク デフォルトゲートウェイ	機器の IP アドレス設定を表示します。

[機器設定 メニュー]

メニューをクリックすると「編集」「追加」「複製」「削除」「CH 番号編集」「再起動」の実行が可能です。TX カード/RX カードともに複数のカードをチェックすることで、複数のカードに対しメニューの内容を実行可能です。「CH 番号編集」を除き、実行には最低1枚以上のカードが選択されている必要があります



<クロスポイントメモリ設定画面>

クロスポイントメモリ画面 (参照:P. 20)で出力されるクロスポイントメモリカードを作成(メモリイン)する画面です。

<マルチビュー設定画面>

マルチビュー画面 (参照:P. 20)で使用するマルチビューカードを作成する画面です。画面上部のタブにて「マルチビュー設定」タブと「レイアウト編集」タブに切り替え可能です。

<ビデオウォール設定画面>

ビデオウォール画面 (参照:P. 21)で使用するビデオウォールカードを作成する画面です。

<RS-232C 接続設定画面>

送信器/受信器に装備されている RS-232C 端子を用いた、RS-232C 通信中継接続を管理する画面です。外部機器同士の RS-232C 通信中継を目的としています。

「1:1 接続」と「1:n 接続」があり、「1:n 接続」では送信元(セNDER)から受信先(レシーバー)への一方通行となっています。

送信器/受信器両方がセNDER/レシーバーになることが可能です。RS-232C 接続設定においては、送信器/受信器の機能的な区別はありません。

<システム設定画面>

本機の動作の詳細を設定する画面です。

システム設定	
<input type="button" value="変更を保存"/> <input type="button" value="最適化"/>	
デフォルト画面	クロスポイント
実行確認	<input type="checkbox"/> クロスポイントメモリ実行の確認
IP設定	IP <input type="text" value="192.168.2.10"/> / <input type="text" value="24"/> GW <input type="text"/>
DHCPサーバ設定	Range <input type="text" value="192.168.2.200"/> - <input type="text" value="192.168.2.227"/> リース期間 <input type="text" value="24"/> 時間
RTC時刻設定	<input type="checkbox"/> 以下の時刻に変更する 年月日 <input type="text" value="2021/04/07"/> <input type="button" value="📅"/> 時刻 <input type="text" value="10:11:37"/> <input type="button" value="🕒"/> <input type="checkbox"/> 以下のブラウザ時刻に変更する 年月日 2021/04/07 時刻 10:12:44
ログ・設定ファイル	
ログのダウンロード	<input type="button" value="ログの取得"/>
設定のエクスポート	<input type="button" value="設定の取得"/>
設定のインポート アップロード	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません <input type="button" value="インポート"/>
設定のインポート USB	インポートデータは見つかりませんでした。 <input type="button" value="インポート"/>
ファームウェア アップロード	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません <input type="button" value="適用"/>
ファームウェア USB	インポートデータは見つかりませんでした。 <input type="button" value="適用"/>
バージョン情報	
Version	2.1.19
Revision	v3000.cff92f4.8fd73b5d
BUILD	20210329
MAC	00:11:0c:22:16:eb
オープンソースライセンス	<input type="button" value="ダウンロード"/>

項目	説明
デフォルト画面	ログインした直後の画面、またメニューボタン最上部の「NEX-SMART」ロゴをクリックした時に遷移するデフォルト画面を選択します。 クロスポイント画面、クロスポイントメモリ画面、マルチビュー画面、ビデオウォール画面のいずれかより選択可能です。
IP 設定	本機の IP アドレスを設定します。 本機DHCPサーバー機能を有効化して運用する場合、後述する「DHCPサーバー設定」のRangeと重複する値には設定することができません。
DHCP サーバー設定	DHCP サーバー機能が無効化されている場合、本項目は表示されません。 DHCP サーバー機能を有効化した時(参照:P.7 ②)の動作設定を行います。 接続機器に割り当てる Range(IP アドレスの割り当て範囲)と、そのリース時間を設定します。Range の初期値は 192.168.1.100 ~ 192.168.1.227 となっています。 本機の DHCP サーバー機能は、Class C となります(192.168.0.0 ~ 192.168.255.255 ネットマスク 255.255.255.0)。
RTC 時刻設定	本機は RTC という時刻を保持する IC チップを内蔵しています。 <u>最初に本項にて必ず時刻設定を行ってください。</u>
ログのダウンロード	弊社保守作業用ログファイルを Zip 形式でダウンロードします。
設定のエクスポート	本機の設定をバックアップした、設定ファイルをダウンロードします。
設定のインポート アップロード	エクスポートした設定ファイルをアップロード・インポートすることで、設定を一括復元します。
設定のインポート USB	設定のインポートを USB メモリを用いて行います。
ファームウェア アップロード	弊社提供のアップデートファイルを本画面からアップロードし、本機をアップデートします。
ファームウェア USB	ファームウェアのアップデートを USB メモリを用いて行うことができます。
バージョン情報	本機のバージョン情報が表示されます。 また本機開発に用いられたオープンソースライセンスファイルがダウンロード可能です。
変更を保存	編集した内容を保存します。
最適化	システムの最適化を実行します。

<アカウント設定画面>

アカウントのパスワードを 8 ~ 32 文字の間で設定可能です。
ユーザー名は固定で変更できません。

パスワード設定	
一般ユーザー	ユーザー名 [user] (ユーザー名は固定です) パスワード <input type="password"/> <input type="button" value="変更を保存"/>
管理ユーザー	ユーザー名 [admin] (ユーザー名は固定です) パスワード <input type="password"/> <input type="button" value="変更を保存"/>
ユーザー認証	<input type="checkbox"/> ログイン画面をスキップする (設定はすぐに反映され、次回ログインから有効になります)

⚠重要な注意事項

管理ユーザーのパスワードを紛失した場合、本機の設定変更ができなくなってしまうので十分ご注意ください。
 万が一紛失した場合は、初期化スイッチ(参照:P.7 ⑤)を長押しすることでパスワードも初期化されますが、
 全ての設定が出荷状態にリセットされてしまいます。

10. 設定ファイル(バックアップ)について

システム設定画面(参照:P.27)では現在の設定内容をファイルとしてインポート・エクスポート可能です。
 主にシステムのバックアップとして使用します。
 インポートを実行すると、インポート前の設定は上書きされてしまいますのでご注意ください。

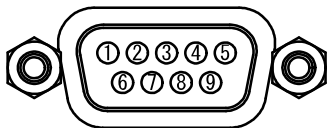
11. シリアル通信による外部制御

Web ブラウザからの設定が完了している場合、本機はRS-232C 端子及びLAN 端子を通じたコマンドによる外部制御が可能です。
 本機能を利用することで制御用パソコンなどを用いることなく NEX-SMART 機器を制御可能です。
 本機に向けてコマンドを送信する際は、必ず本機からの応答を待ってから次のコマンドを送信してください。

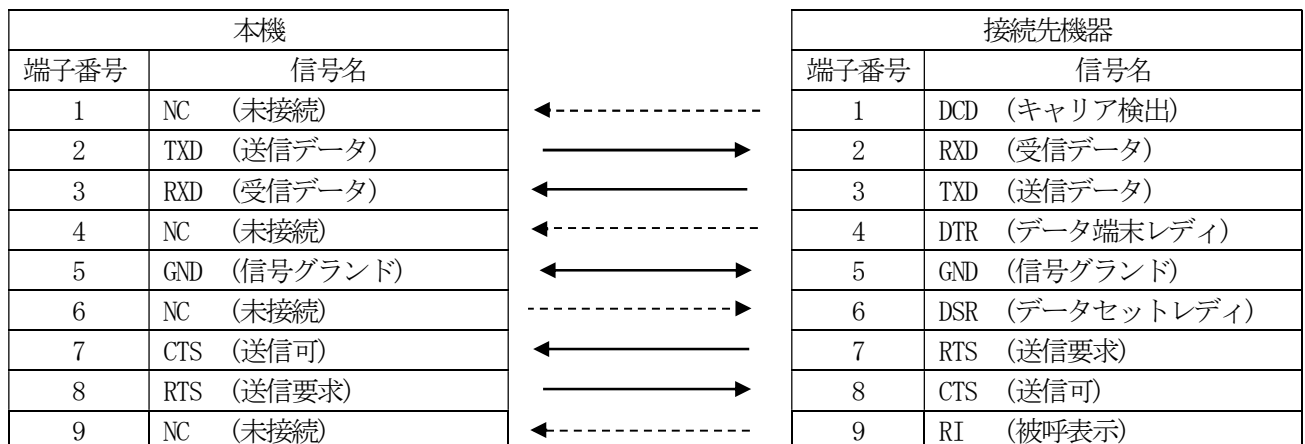
<RS-232C 通信>

本機を RS-232C 通信で外部制御する場合は、次のように通信設定してください。

データビット長	8ビット
パリティチェック	なし
ストップビット長	1ビット
CTS/RTS ハードフロー	有効
ソフトフロー	無効
通信方式	全二重
通信速度	9,600 bps

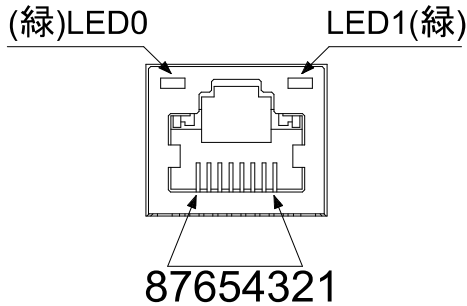


D-sub9 極 (オス) アサイン本機のシリアル通信ボーレートは9,600 bps 固定となっています。
 パソコンから接続する際は、RS-232C D-sub9 極 メス-メス 全結線ストレートケーブルで接続してください。



<LAN 通信>

LAN を通じたシリアル通信にて本機を制御する場合は、複数の外部制御機器より操作することも可能です(参照:P. 11)。制御ポートとして TCP/1400 を使用します。本機の LAN 端子は下記仕様となっています。



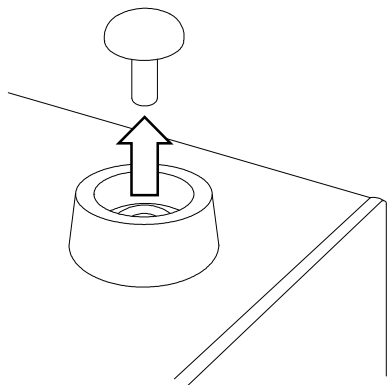
ピンサインは下表のようになりますが、本機は接続機器に応じて MDI/MDI-X を自動的に切り替えます。

ピン 番号	MDI		MDI-X	
	1000BASE-T	100BASE-TX/10BASE-Te	1000BASE-T	100BASE-TX/10BASE-Te
1	TP0+(送受信データ+)	TX+(送信データ+)	TP1+(送受信データ+)	RX+(受信データ+)
2	TP0-(送受信データ-)	TX-(送信データ-)	TP1-(送受信データ-)	RX-(受信データ-)
3	TP1+(送受信データ+)	RX+(受信データ+)	TP0+(送受信データ+)	TX+(送信データ+)
4	TP2+(送受信データ+)	NC (未接続)	TP3+(送受信データ+)	NC (未接続)
5	TP2-(送受信データ-)	NC (未接続)	TP3-(送受信データ-)	NC (未接続)
6	TP1-(送受信データ-)	RX-(受信データ-)	TP0-(送受信データ-)	TX-(送信データ-)
7	TP3+(送受信データ+)	NC (未接続)	TP2+(送受信データ+)	NC (未接続)
8	TP3-(送受信データ-)	NC (未接続)	TP2-(送受信データ-)	NC (未接続)

LED0	LED1	リンク/アクティビティ
OFF	OFF	リンク OFF
OFF	ON	1000Mbps リンク/アクティビティなし
OFF	点滅	1000Mbps リンク/アクティビティ (RX、TX)
ON	OFF	100Mbps リンク/アクティビティなし
点滅	OFF	100Mbps リンク/アクティビティ (RX、TX)
ON	ON	10Mbps リンク/アクティビティなし
点滅	点滅	10Mbps リンク/アクティビティ (RX、TX)

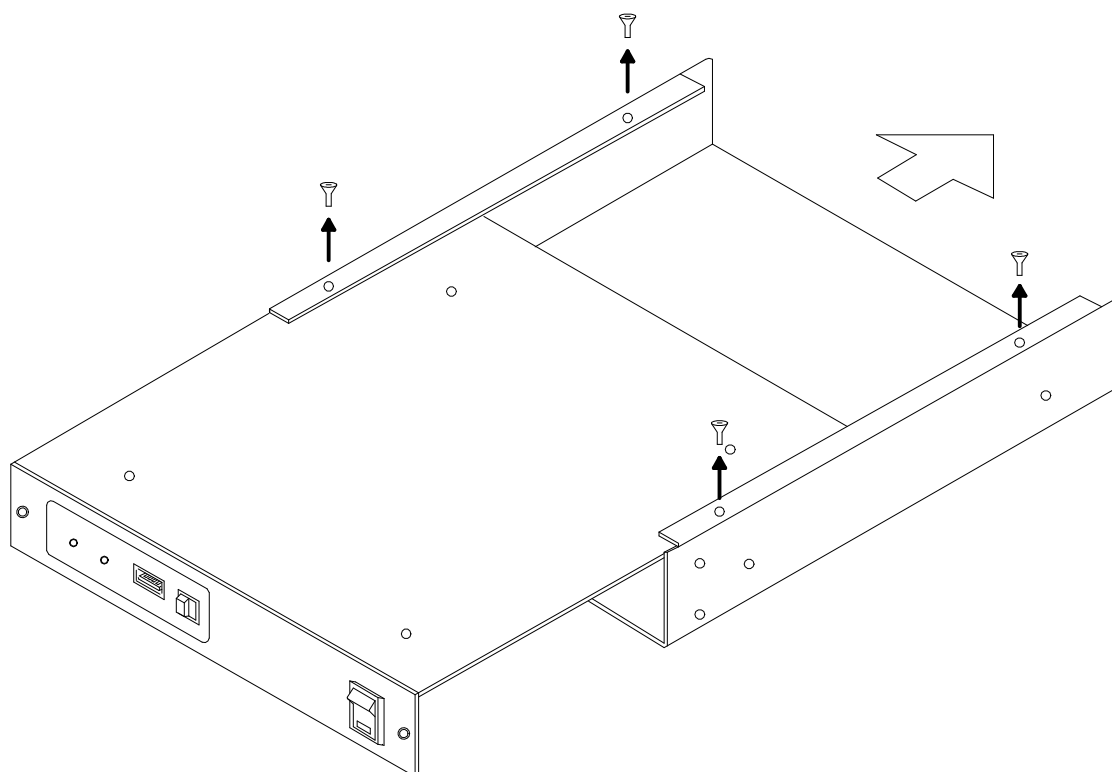
12. トップカバーの取り外しとラックマウント

本機は別売の MK-100 ラックマウントキットを使用して、19 インチ EIA ラックに 1 台または 2 台の実装が可能です。2 台の実装を行なうには、本機のトップカバー同士を予め MK-100 付属のネジで連結しておく必要があります。詳細は MK-100 の取扱説明書をご確認ください。ラック実装時には結露の発生や外部熱に注意して設置してください。本機のトップカバー及びゴム足の外し方を示します。



ゴム足(4箇所)は中央のロックを引き抜くことで取り外せるようになります

シャーシ部分のネジ四箇所取り外し、トップカバーを背面方向にスライドさせて分離します。

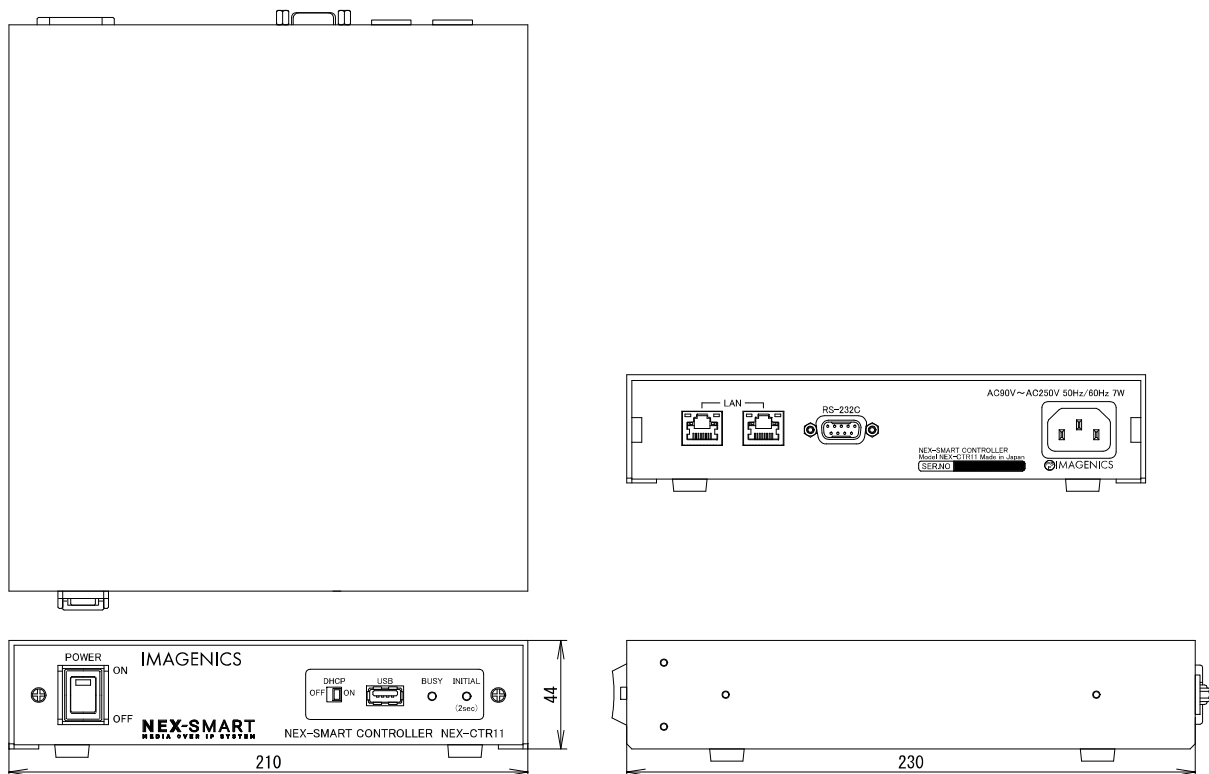


13. 本機の仕様

<概略仕様>

RS-232C	:RS-232C 全二重 1系統 (D-sub9極 オス) 9,600 bps (データ8 bit ストップビット1 bit パリティ無し)
LAN	:1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Te(10BASE-T) Auto Negotiation、Auto MDI/MDI X、1系統(RJ-45 × 2)
USB	:Aタイプ 1系統 FAT32, exFAT フォーマット USB メモリ専用
ネットワーク	
デフォルト IP アドレス	:192.168.1.3/24
対応プロトコル	:TCP, UDP, HTTP, IGMP, DHCP(Class C)
電源	:AC 90 V ~ AC 250 V 50 Hz・60 Hz コイン型電池 CR2032 6年(気温20℃ 参考値)
最大消費電力	:約 7 W (最大)
動作温湿度	: 0℃ ~ 40℃ 20%RH ~ 90%RH(ただし結露なき事)
保存温湿度	:-20℃ ~ 70℃ 20%RH ~ 90%RH(ただし結露なき事)
外形寸法	:幅 210 mm x 高さ 44mm x 奥行き 230 mm (突起部は含まない)
質量	:約 1.8 kg
付属品	:3P-3SL 電源コード(AC 100 V系、ロック機構付き) 1本、3P-2P 電源変換プラグ 1個 ※EIA19型ラックにマウントするには、別売りのMK-100が必要です。

<外観図>



仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。

Copyright 2021 イメージニクス株式会社 All rights reserved.

1. 本機は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不都合がありましたら、当社営業窓口までご相談ください。
2. 正常な使用状態で本機に故障が発生した場合は、当社は本機の保証書に定められた条件にしたがって修理いたします。ただし、本機の故障、誤動作、不都合、あるいは停電などの外部要因により利用の機会を逸したために生じた損害などの付随的損失の補償につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
3. 本書および本機は改良のため、将来予告なく変更することがあります。
4. 本書の著作権はイメージニクス株式会社に帰属します。本書の一部または全部をイメージニクス株式会社から事前に許諾を得ることなく転載することはお断り申し上げます。
5. 本書の内容については、万全を期して作成いたしましたが一誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら当社営業窓口までご連絡ください。
6. 本機のファームウェアおよびハードウェアに対して、リバースエンジニアリング等の手法によって内部を解析し利用することはお断り申し上げます。
7. 乱丁本、落丁本の場合はお取替えいたします。当社営業窓口までご連絡ください。

本書に記載されている会社名や商品名は、各社の商標、または登録商標です。

製造元 イメージニクス株式会社

製品に関するお問い合わせは下記サポートダイヤルにて承ります。

フリーダイヤル（全国共通）0120-480-980

東日本サポート TEL 03 (3464) 1418

西日本サポート TEL 06 (6358) 1712

東京営業所 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-16-7 ハイウェービル 6F
TEL 03 (3464) 1401

大阪営業所 〒534-0025 大阪市都島区片町 2-2-48 JEI 京橋ビル 3F
TEL 06 (6354) 9599

福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 1-18-25 第5 博多借成ビル 3F
TEL 092 (483) 4011

本社 〒182-0022 東京都調布市国領町 1-31-5

URL <http://www.imagenics.co.jp/>
